

# 奈良・飛鳥京跡

あすかきょう

- 1 所在地 奈良県高市郡明日香村岡
- 2 調査期間 第一一一次調査 一九八六年(昭61) 七月～九月
- 3 発掘機関 奈良県立橿原考古学研究所
- 4 調査担当者 小澤 毅
- 5 遺跡の種類 宮殿跡
- 6 遺跡の年代 七世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(吉野山)

飛鳥京跡は明日香村岡に所在し、一九六〇年度からの継続的な発掘調査により、七世紀の複数の宮殿遺構が存在することが判明している。調査地一帯は、舒明天皇の飛鳥岡本宮から天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮まで、七世紀の主な宮殿が営まれた場所である。

飛鳥京跡で検出される遺構は大きく三時期に分かれ、Ⅲ期遺構は斉明・天智天皇の後飛鳥岡本宮と天武・持統天皇の飛鳥浄御原宮に、Ⅱ期遺構は皇極天皇の飛鳥板蓋宮に比定されている。構造が最もよくわかっているⅢ期遺構は、東西約一六〇m南北約二〇〇mの方形区画の中に大小の建物が配置された「内郭」を中心とし、その南東には大型建物とそれを囲んだ施設「エビノコ郭」が配され、さらにこれらを「外郭」が囲んでいる。また「内郭」の北西には、中嶋のある石組の池を中心とする「苑池遺構」が設けられている。

第一一一次調査は、Ⅲ期遺構の「内郭」東北隅から北東へ五五mほど離れた、「外郭」に含まれる地点の発掘調査で、調査面積は二四m<sup>2</sup>である。調査の結果、Ⅲ期遺構では、砂利敷SH八六〇一・植物質堆積SX八六〇二・植物質堆積SX八六〇四を検出した。SH八六〇一は調査区全面で検出した舗装であり、その下部で検出したSX八六〇二・八六〇四はⅢ期宮殿造営時の廃棄物と想定される。Ⅱ期遺構では、石列SX八六〇五・木片の集中堆積SX八六〇六を検出した。SX八六〇五は調査区北寄りで検出した、径二〇～三〇cmの自然石を二～三列に並べた東西方向の石列で、層的にⅢ期遺構に先行する。性格は不明であるが、石列の形状が同時期の石組溝とは異なるため、溝の可能性は少ない。SX八六〇六はSX八六〇五の下位にあり、長径約二mの不整形円形を呈する。Ⅱ期宮殿造営に伴う廃棄物の堆積と考えられる。

木簡は、Ⅱ期遺構に属する石列SX八六〇五の隙間の石の下面近



くから一点が出土した。また、SX八六〇二からも削屑の細片二点が見つかっているが、釈読不能である。

8 木簡の釈文・内容

(1)

秦人マ□

031

四周のいずれも原形をとどめない、長さ六五mm幅一一mmほどの削片である。墨書は二行にわたっている。上部には一文字分の余白がある。右行は、文字の左端がわずかに残っているのみで、判読できない。

9 関係文献

奈良県立橿原考古学研究所『奈良県遺跡調査概報 一九八七年度  
(第一分冊)』(一九九〇年)

(鶴見泰寿)